

連携先世界遺産： 醍醐寺

醍醐寺の寺宝とご縁を結ぶ写仏用紙作成

■ 受講生

大島 歩 (京都橘大学大学院・M1)、仮谷 麻沙佳 (京都橘大学大学院・M1)、田中 海成 (京都橘大学大学院・M1)、藤村 紘之 (京都橘大学大学院・M1)
 大平 瑞穂 (京都橘大学・文学部・4年生)、佐々木 祐士郎 (京都橘大学・文学部・4年生)、佐藤 優 (京都橘大学・文学部・4年生)、三嶋 諒 (京都橘大学・文学部・4年生)、深尾 英佑 (京都橘大学・文学部・4年生・observer)
 大石 樹生 (京都橘大学・文学部・3年生)、岡田 一矢 (京都橘大学・文学部・3年生)、山本 美喜 (京都橘大学・文学部・3年生)、原 祥子 (京都橘大学・文学部・3年生)、森田 早紀 (京都橘大学・文学部・3年生)
 伊藤 潤 (京都橘大学・文学部・2年生)、片岡 茉柚 (京都橘大学・文学部・2年生)、加藤 里奈 (京都橘大学・文学部・2年生)、川崎 朋美 (京都橘大学・文学部・2年生)、寺田 善照 (京都橘大学・文学部・2年生)、長澤 知真 (京都橘大学・文学部・2年生)、日高 智尋 (京都橘大学・文学部・2年生)

■ 担当教員・TA

小林 裕子 (京都橘大学・文学部・准教授) ・渡邊 菜月 (京都橘大学大学院・M3)

活動目的・概要

目的：本学オリジナルの醍醐寺写仏用紙作成

概要：写経が經典を一文字一文字書き写すことで仏さまへの功德を積むことと同様に、仏さまの姿をなぞることで仏像一体一体を刻むかのような功德を積むための写仏用紙を作成しました。写仏の対象は彫刻ばかりでなく、塔や絵画、書蹟も仏の姿をさまざまに具現したのものとして含めようと我々は考えました。そして拝観者が写仏をするからには対象を深く理解してもらいたく、先行研究を辿り、歴史遺産学科学学生ならではの解説文を用紙裏面に付すこととしました。こうした作業は、普段からおこなっている美術工芸品調査の技術を用いるものです。今回の活動を通じて、写仏用紙を活用する拝観者が醍醐寺の寺宝とご縁を結ぶお手伝いを実現し、さらには我々自身も醍醐寺をより身近に感じる契機とすべく、取り組みました。また、お寺さまにお力添えいただくにあたり、社会人としていかに行動すべきか学生一人一人が考える機会になったかと思います。



◆ 主な活動(履修者全体に係るもののみ)

2018. 1. 26 醍醐寺と科目担当者打ち合わせ
 2018. 1. 30 科目担当者より科目概要説明
 2018. 5. 12 インタビュートレーニング
 2018. 5. 20 全体オリエン・学科内打ち合わせ
 2018. 6. 16 醍醐寺での講義(執行仲田順英師)
 下伽藍フィールドワーク(飯田俊海師)
 2018. 7. 08 上醍醐フィールドワーク: 大雨延期
 2018. 8. 04 学内打ち合わせ
 2018. 10. 21 プレゼントレーニング

2018. 11. 10 学内打ち合わせ・Illustrator講座
 2018. 11. 30 リーダー会議
 2018. 12. 04 成果発表会リハーサル
 2018. 12. 09 成果発表会
 2018. 12 醍醐寺への報告(予定)
 2019. 1. 上醍醐フィールドワーク(予定)

※ グループ毎の自主活動については数が多すぎるため割愛。

活動を振り返って

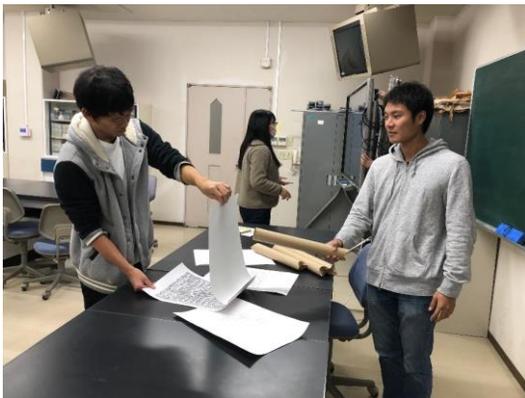
原 祥子（歴史遺産学科美術史ゼミ 3 回生）

私は書蹟チームに所属し、狸毛筆奉獻表と醍醐花見短籙の二作品の籠字と模様の特レースをおこないました。その作業を通して特に印象に残っているのは、醍醐花見短籙の文字の背景です。三葉の歌はいずれも「花」についての歌ですが、歌からうかがえる咲きぶりが違います。歌の意味の違いが背景の桜や雲の表現に現れているように私は感じました。「うつもるはなもあらはれにけり」の句では、背景の桜の輪郭が控えめに描かれています。「花のおもかげ」とある二句目では、逆に花の輪郭を強くあらわし、色が入っていない表現もなされています。「花さかり」とある三句目は、ハッキリと一枚一枚の花びらがよくわかる表現だと私は感じました。つまり、句による桜の違いを背景からも見てとれると思ったのです。お寺さまにレプリカを見せていただいたことで上記のような観察をすることができたため、より緻密な作品制作に繋がりました。

また、書蹟二作品ともに籠字をおこなうことで、字形、書き順、筆の入り方、線の強弱を意識して見る事が出来たと思います。個々に進めるのではなくチーム全員が定期的集まり、制作を進め、納得のできるかきおこし作品が出来上がりました。PBLでは醍醐寺のさまざまな部分を知ることができたばかりでなく、チームで作品を作り上げていくおもしろさをも感じることができました。

インタビュートレーニング、プレゼンテーショントレーニングを外部の講師の方に教えていただいたことも役立ちました。私自身、他大学の学生とのコミュニケーションをはかることが普段の生活の中にはなかったもので新鮮で興味深かったです。講義から会話をどのように広げるか、また人にわかりやすく伝えるかを学ぶことができました。

多くの人にこの写仏用紙の線をなぞることを楽しんでもらい、裏面の解説文を読んで醍醐寺の寺宝を知っていただけたら良いなと思っています。



担当教員からのコメント

小林 裕子

今夏、醍醐寺様が大雨の影響で大きな被害を受けられましたこと、一同心よりお見舞い申し上げます。そのようななか、本学の活動に対して変わらぬご指導ご協力を賜り、誠に有り難うございました。これまでの世界遺産PBLにおいても醍醐寺様、コンソーシアム他多くの方々にお世話になり毎年貴重な経験をさせていただいております。とくに学生には、学外でいろいろな方と接することで将来社会で活躍していくにあたって何が重要なのか考えてもらえたのではないかとと思います。

実際に文化遺産を眼前にして得るもの、先学の成果から得るもの、これらをいかに多くの拝観の皆様へ伝えるか、試行錯誤し辿り着いた写仏用紙作成というテーマでしたが、思いのほか履修者が多く、ひとつの目標に向かってグループで乗り越えていく過程や達成感を各者感じにくかったかもしれません。しかし諸君が数年後、PBLを振り返った時にその意義深さに気付いてくれればと願うばかりです。

活動資料

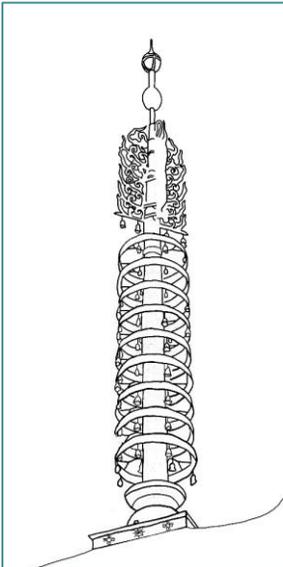


左: 何度も訪れている醍醐寺であるのに、飯田先生のお話をうかがいながら歩くとまったく違った印象を受けます。

右: かきおこし図を印刷する紙はどれがいいか、数葉のかきおこし図をセットするケースはどれがいいか、相談が続きます。

各グループのかきおこし途中経過

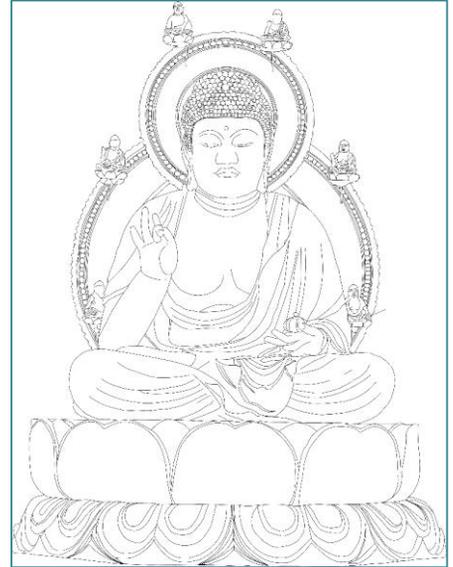
五重塔相輪



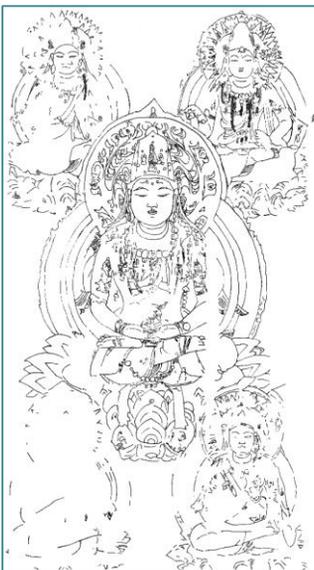
薬師脇侍日光月光



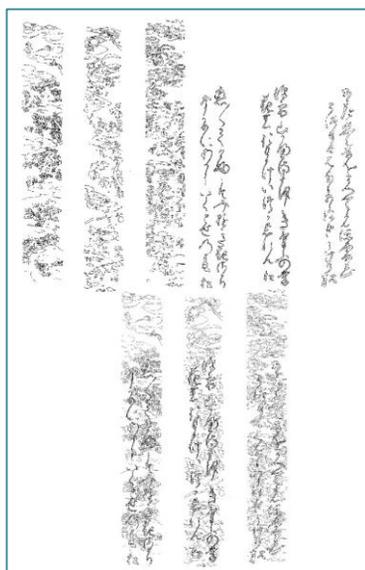
薬師如来坐像



五重塔初層壁画



醍醐花見短籍



胎蔵曼荼羅

